宇部市地球温暖化対策ネットワーク　低炭素地域づくり協議会　第４回　議事録

１　日　　時　　2011 年 2 月 8 日（金）13 時 30 分～14 時 30 分

２　場　　所　　総合福祉会館　２階　ボランティア交流ホール

３　出 席 者（敬称略）

委員	会長	山口大学大学院理工学研究科准教授	榊原　弘之
		宇部興産㈱環境安全部長	佐藤（代理）
		協和発酵バイオ㈱山口事業所宇部環境安全室長	高嶋　則之
		㈱宇部日報社編集局課長	古重　周三
		㈱エフエムきらら取締役コーディネーター	田村　知里
		西日本旅客鉄道㈱山口地域鉄道部企画課長	田中　清治
		船木鉄道㈱専務取締役	田中　敬一
		サンデン交通㈱自動車部業務担当課長	福本　芳博
		NPO 法人うべネットワーク理事	作本　季里
		宇部商工会議所総務部長	佐々木　克彦
		NPO 法人環境共生機構理事長	臼井　恵次
		宇部市交通局交通事業課長	大谷　唯輝
		宇部市市民環境部環境政策課	藤永　義昭
		宇部市総合政策部企画課交通運輸政策班長	民谷　有弘
		国土交通省中国運輸局山口運輸支局首席運輸企画専門官※	山田　雅之
		環境省中国四国地方環境事務所広島事務所長※	藤岡　満樹
		山口県地域振興部交通運輸対策室室長※	賀屋　哲也
		山口県環境生活部環境政策課主任※	坂本　聡

※オブザーバー

以上　１８名

欠席委員	セントラル硝子㈱宇部工場環境安全課長	竹本　哲朗

以上　　１名

事務局	宇部市地球温暖化対策ネットワーク	代表	中西　弘
		事務局長	仰木　則康
	〃	事務局員	兼久　威矩
	〃	〃	永山　亜希子
	〃	〃	名越　久美
	株式会社バイタルリード		宮地　岳志
	〃		岡田　あかね

以上　　7 名

４　議　事

（１）低炭素地域づくり行動計画（案）について

（２）その他

５　議事要旨

■低炭素地域づくり行動計画（案）について

会長　計画書について事務局からご説明いただいた。今まで取り組んできた中には十分でなかった部分もあるが、今後どう取り組んでいくかが計画に入っていると思う。意見、質問をお願いしたい。表題として「スマート通勤促進計画」としているが、第 5 章は通勤に特化した取り組み、第 6 章は協議会だけでなく市の事業もあり、広い取り組みとなっているが、そういった広がりも必要という判断か。

事務局　おっしゃる通り、第 5 章は協議会でできる範囲でスマート通勤に特化しており、第 6 章は、スマート通勤に関連する他の組織もあるので、その協力を得ながら進めていきたいということで広がりを持たせている。

臼井委員　P70 のバイオディーゼルについて、小野地区の生活交通バスが平成 22 年までと記載されているが、平成 22 年度までしかやらなかったという解釈にならないか。小野地区の取り組みは、山口エコ市場のカーボンオフセット審議会の審査に通り、確か 1t あたり 3 千円程度で取引されているもの。そのときに平成 22 年度までとは聞いていなかったが、交通局の方にお伺いしたい。

会長　事務局で把握しているか。

事務局　分からない。

民谷委員　校正間違いである。

会長　平成 22 年ではないということか。

民谷委員　変わっているはずであるので、校正誤りである。

会長　事務局で確認していただきたい。計画書については、現状では通勤に特化してとれる手段が限られている中で計画を作られたと思う。第 5 章は基本的に平成 22 年度にやっているようなことの継続ということか。

事務局　そうである。基本的に、メニューとしてはこの範囲で考えており、できる範囲でやっていきたい。

藤永委員　計画ということで平成 23 年度から取り組んでいくということだが、第 5 章は、平成 21 年度、22 年度に行ったことを報告書的に書いているように感じる。協議会が実施するという説明だったが、それが前提として記載されていないので他の人に分からないのではないか。それから、まだ細部まで検討するには時間が必要であり、その結果細かい修正点が出るか

もしれない。今日が最終の協議会であるが、今後の修正方法を協議していただきたい。

事務局　協議会が実施するということは計画書内に明記する。細かい修正は一定の期間を設け意見をいただき、それを踏まえて修正する。

会長　まずは計画書の訂正についてだが、環境省への提出期限はいつか。訂正の期間についてはどれくらいと考えてよいか。

事務局　最終提出期限は 2 月 26 日だが、21 日までに内容の確認をするため 18 日くらいには一応完成させたい。

会長　では修正点等あれば、来週の頭までに事務局へ伝えてほしい。藤永委員のおっしゃったように、第 5 章は協議会が実施するということ、第 6 章は市または他の機関が実施するものもあるということを書いてもいい。第 5 章は職場 MM が主であり、P22 に一覧表があるが、可能であれば平成 21 年度、22 年度の効果を踏まえ、効果が上がっているものと比較的波及が難しいものなど差があると思うので、強弱をつけられるといいと思う。例えば、ポスターは今年度からだが認知度が高いという話もあったので、そのあたりの強弱をつけてはどうか。

事務局　わかっていることを反映したい。

■その他

事務局　次年度以降をどうするかについてだが、先週環境省に行き話をうかがった。この事業を進めるにあたっては予算がつきにくい状況であり、まだ次年度の費用的な目処は立っていない。この協議会を立ち消えさせるのはよくないと考えており、UNCCA、バイタルリード、榊原先生の 3 者で、労力を提供できる範囲で協議会を進めていきたい。委員の方にもできれば引き続き協議会に参加いただきご協力をいただければと考えている。かなり厳しい状況ではあるが次年度も進めたいのでご協力をいただきたい。また、これについてご意見をいただきたい。

会長　今年度作成する計画の第 5 章の内容を誰がどう実施するかである。次年度の予算は不明とのことだが、少なくとも 3 者で活動を続ける用意があるということである。これについてご意見、質問はないか。今年度までは環境省の事業であったが次年度からは自立していかないといけない。ここからが正念場であるので、可能な範囲で各団体のご協力をお願いしたい。当面はこの枠組みで維持し、具体な体制についてはそれぞれ対応していくとになると思うが、この計画を作ったので遂行できる形を作りたい。何か質問はないか。では、ご意見・質問もないようなので、計画の修正等については 2 月 15 日ごろまでに事務局へ連絡していただき、特に藤永委員からご指摘いただいた意見については事務局で対応をお願いしたい。この 2

年間後協力いただきありがとうございました。次年度については未定の部分も多いが、せっかくいい枠組みができているので何らかの形で活動を継続する努力をしたい。

以上